

国連ミレニアム開発目標報告



UNITED NATIONS

2015

7月6日米国東部夏時間(グリニッジ標準時間-4)
午前10時15分報道解禁

ファクト・シート

目標 1: 極度の貧困と飢餓の撲滅

- ▶ **極度の貧困**：1990年には開発途上地域の人口の半数近くが1日1ドル25セント未満で生活していました。この割合は2015年には14%まで減少しました。世界全体では極度の貧困の中で暮らす人々の数は1990年の19億人から2015年には8億3,600万人と半数以下にまで減少しましたが、その減少の大部分は2000年以降に起きています。
- ▶ **飢 餓**：開発途上地域における栄養不良の人々の割合は1990年から1992年の期間は23.3%でしたが、2014年から2016年の期間は12.9%となる見込みで、1990年からほぼ半分に減少しています。

目標 2: 初等教育の普遍化の達成

- ▶ **初等教育就学**：開発途上地域における初等教育純就学率は2000年の83%から2015年には91%に達しています。
- ▶ サハラ以南アフリカにおける初等教育純就学率は、1990年から2000年の間は8パーセントポイントの上昇だったのに比べ、2000年から2015年までに20パーセントポイント上昇しており、全地域の中で最大の進歩を記録しました。
- ▶ **非就学児童**：世界全体で初等教育非就学児童の数は2000年の1億人から2015年には推計で5,700万人まで減少しています。
- ▶ **識字率**：15歳から24歳までの青少年の識字率は世界全体で1990年から2015年の間に83%から91%へと向上し、女性と男性の格差は縮小しています。

目標 3: ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

- ▶ **教育におけるジェンダーの平等**：15年前と比較し、現在、学校に通う女子は大きく増加しています。南アジアでは、1990年に小学校に通う女子は男子100人あたりわずか74人でしたが、今日では男子100人あたり103人の女子が小学校に通っています。
- ▶ **女性の雇用**：非農業部門で女性の有給雇用の比率は1990年の35%から2015年には41%に増加しています。
- ▶ **議会における女性**：過去20年間でデータのある174カ国のうち90%近い国で女性の政治参加が進んでいます。同期間に議会における女性議員の割合は平均でほぼ倍になりましたが、それでも女性議員の数は議員5人あたりわずか1人です。

目標 4: 幼児死亡率の引き下げ

- ▶ **幼児死亡率**：世界の5歳未満幼児死亡率は1990年から2015年の間に生児出生1,000人あたり90人から43人へと低下しています。開発途上地域の人口が増加している中で、5歳未満の幼児死亡数は世界全体で1990年の1,270万人から2015年にはほぼ600万人まで減少しました。



- ▶ **感染症**：はしかの予防接種のおかげで 2000 年から 2013 年の間に 1,560 万人が死を免れました。世界全体ではしかの症例数は 67%減少したと報告されています。少なくとも 1 回はしかの予防接種を受けた子どもの割合は世界中で 2000 年の 73%から 2013 年には 84%まで上昇しました。

目標 5:妊産婦の健康状態の改善

- ▶ **妊産婦死亡率（世界全体）**：1990 年以降世界の妊産婦死亡率はほぼ半減しましたが、その減少の多くは 2000 年以降に起きています。
- ▶ **妊産婦死亡率（南アジア、サハラ以南アフリカ）**：南アジアにおける妊産婦死亡率は 1990 年から 2013 年の間に 64%低下し、サハラ以南アフリカではほぼ半減しました。
- ▶ **出産立会い**：2014 年には世界の 4 分の 3 近い出産が熟練医療従事者の立会いの下で行われ、1990 年の 59%から上昇をみせました。

目標 6:HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止

- ▶ **新規 HIV 感染者**：HIV への新規感染者は 2000 年の推定 350 万人から 2013 年の 210 万人へと約 40%減少しました。
- ▶ **抗レトロウイルス療法**：2014 年 6 月までに世界中で 1,360 万人の HIV 感染者が抗レトロウイルス療法（ART）を受けていましたが、これは 2003 年のわずか 80 万人から飛躍的な進歩です。ART によって 1995 年から 2013 年の間に 760 万人がエイズによる死を免れました。
- ▶ **マラリアによる死およびマラリア発生率**：2000 年から 2015 年の間に 620 万人以上の人々がマラリアによる死を免れています。その多くがサハラ以南アフリカに住む 5 歳未満の子どもたちです。世界のマラリア発生率は推計で 37%低下しており、その死亡率は半分以下に減少しています。
- ▶ **結核**：2000 年から 2013 年の間に結核の予防、診断、治療によって推計で 3,700 万人の命が救われました。結核による死亡率は 45%低下し、有病率は 1990 年から 2013 年の間に 41%低下しました。

目標 7:環境の持続可能性の確保

- ▶ **飲料水**：2015 年には世界の人口の 90%以上が改良された飲料水源を使用しており（1990 年にはおよそ 4 分の 3）、1990 年以降に約 26 億人が改良された飲料水へのアクセスを得ました。
- ▶ **衛生施設**：世界全体で 21 億人の人々が改良された衛生施設を利用できるようになりました。1990 年以降に、野外排泄を行う世界の人口の割合はほぼ半減しました。
- ▶ **オゾン層破壊**：オゾン層破壊物質は 1990 年以降ほとんどが除去され、オゾン層は今世紀半ばまでに回復すると見込まれています。
- ▶ **スラム**：開発途上地域でスラム地区に居住する都市人口の割合は 2000 年の約 39.4%から 2014 年には 29.7%まで減少しました。

目標 8:開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

- ▶ **政府開発援助（ODA）**：先進国からの ODA は 2000 年から 2014 年の間に実質ベースで 66%増加し、1990 年の 810 億ドルから過去最高の 1,352 億ドルまで伸びました。2014 年には、デンマーク、ルクセンブルク、ノルウェー、スウェーデンおよび英国が引き続き、それぞれの国民総所得（GNI）の 0.7%という国連の ODA 目標額を越えて援助を行いました。

- ▶ **貿易**：先進国の開発途上国からの輸入のうち非課税輸入の割合は 2000 年の 65%から 2014 年にはほぼ 5 分の 4 まで上昇しました。
- ▶ **インターネット普及率**：インターネット普及率は 2000 年には世界人口のわずか 6% 余でしたが、2015 年には 43% まで増加しました。その結果、32 億人がコンテンツとアプリケーションを提供するグローバル・ネットワークにつながっています。
- ▶ **MDG ギャップ・タスクフォース年次報告書**：国連事務総長が MDG8 の具体的目標について進捗状況のモニタリングを向上させるために設置した MDG ギャップ・タスクフォースの 2014 年報告書によれば、各分野で大きな進展が見られました。政府開発援助 (ODA) の顕著な増加と貿易交渉の進展に加え、後発開発途上国の先進国市場に対する非課税・無枠アクセスが改善され、開発途上国における遠隔通信の利用可能性の拡大とコストの低下が確認されています。

分野横断的な課題

- ▶ **根深い不平等**：地域や国によって進展は一樣ではなく、大きな格差が根強く残っています。最も貧しく脆弱な人々の生活を改善し、世界が全体として進展するために、なお一層重点的に取り組む必要があります。
- ▶ **紛争**：2014 年末までに紛争が原因で家を捨て去らなければならなかった人の数は約 6,000 万人に達しました。紛争の影響を受けた国では非就学児童の割合が 1999 年の 30% から 2012 年には 36% まで増加しました。脆弱な国、紛争の影響を受けている国々は一般的に最も高い貧困率を有しており、目標の達成においてあまり進展を見せていません。
- ▶ **ジェンダーの不平等**：女性は、貧困、労働市場、賃金においても、公私の場面での意思決定への参加についても、いまだに大きな格差に直面しています。世界全体で就業年齢の男性の約 4 分の 3 が労働に従事しているのに対し、就業年齢の女性で労働に従事しているのは半分にとどまります。
- ▶ **最貧層世帯と最富裕層世帯、農村部と都市部の経済格差**：開発途上地域では、最貧層世帯（下位 20%）の子どもが成長を阻害される可能性は、最富裕層世帯（上位 5 分の 1）の子ども 2 倍を超えています。農村部の出産で熟練医療従事者の立会いがあるのはわずか 56% ですが、都市部では 87% です。改良された飲料水と衛生施設は農村部ではいまだ多くの人々が利用できていません。農村部で生活する人々のうち改良された衛生施設を有するのは半数にとどまりますが、都市部では 82% です。
- ▶ **気候変動**：2010 年には推定で 520 万ヘクタールの森林が失われました。海洋漁業資源の乱獲により、安全な生物学的利用限界内の資源の割合が 1974 年の 90% から 2011 年には 71% に減少しました。貧困層ほど生計が直接的に天然資源に結び付いており、また、貧困層の居住地域が気候変動等の影響を受けやすい地域に重なることが多いため、貧困層が最大の被害を受けることになります。
- ▶ **貧困および飢餓**：MDGs によって非常に大きな進展があったにもかかわらず、約 8 億人もの人々がいまだに極度の貧困の中で生活しており、健康上の不利益、幼児及び妊産婦の死亡率、高い中途退学率、不適切な衛生施設など、貧困と関連する問題を背負っています。毎日約 16,000 人の子どもが 5 歳の誕生日を迎える前に命を落としています。